

令和7年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和8年3月31日

学) 萩原学園 鶴川若竹幼稚園

1. 本園の教育目標

心身の健康を基本とし、知育・徳育・体育の三つを柱としてバランスのとれた人間育成を目指す。

2. 教育の柱

「体を鍛えることで諦めない心と自信を育てる」
「挨拶や着替えなど基本的な生活習慣を確立する」
「自分の思いを言葉にして伝える」

3. 目標・計画

「縄跳び・鉄棒の取り組み」

- ・全員が前跳び、後ろ跳び、逆上がりができるようになる。
 - ・目標：前跳び100回、後ろ跳び100回、逆上がりができるようになる。
- 上記の取り組みを行うことで、諦めない心と自信を育てる。

4. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	取り組み状況
1	幼稚園は、体力に向上のための適切な指導をしている。	<ul style="list-style-type: none">・週1回（年少：火曜日、年中：金曜日、年長：木曜日）体育講師からの体育指導を受けた。・毎日の保育の中で、保育者と一緒に取り組んだ。・毎朝マラソンを実施（1～3月） 年少3分30秒、年中4分、年長5分
2	幼稚園は、体力の向上に取り組んだ成果の発表の機会を工夫して行っている。	<ul style="list-style-type: none">・10/4（土）運動会を実施した。・2/26（木）体操発表会（年長児）を実施した。
3	幼稚園は、保護者に情報発信している。	<ul style="list-style-type: none">・園だより、クラスだより等で子ども達の成長を伝えた。・日々の保育をInstagram等でアップした。・運動会、体操発表会のライブ配信を行った。
4	幼稚園は、保護者に教育活動を公開している。	<ul style="list-style-type: none">・行事や保育参観を通して、子どもの活動や成果を見てもらった。
5	幼稚園は、安全に配慮し怪我や事故について適切に対応	<ul style="list-style-type: none">・鉄棒の下にグリーンマットを敷いている。・怪我をした際は迅速に処置、保護者への連絡等対応をした。・練習の際は、必ず保育者を配置した。

5. 総合的な評価結果

令和7年度、年長児98名の取り組みでは、逆上がり96%・前跳び97%・後ろ跳び97%の高い達成率を収めることができた。結果として100%に至らなかった項目もあったが、日々の積み重ねによる大きな成果であると評価している。

また、本年度は「とうきょう すくわくプログラム」の探究活動として縄跳び・鉄棒を取り入れ、日常の保育の中で継続的に実践した。子どもたちは繰り返し挑戦する中で、自らやってみたい技に興味を持ち、工夫しながら取り組む姿が多く見られた。友達の姿に刺激を受け、「やってみたい」「もっとできるようになりたい」という意欲へつながり、主体的な学びや探究心を深める機会となった。

この取り組みを通して、技術の習得だけでなく、目標に向かってあきらめず努力する姿勢や、できた喜びから生まれる自信、友達同士で励まし合い認め合う関わりなど、数値では表せない多くの成長が見られた。

100%達成という結果も大変価値のあるものであるが、そこへ向かう過程の中で育まれた子どもたち一人ひとりの成長に、本取り組みの大きな意義があったと考える。

今後も本園の教育方針を大切にしながら、子どもたち一人ひとりの成長につながる保育を継続していく。

6. 学校関係者の評価

入園当初より継続して取り組んできた縄跳び・鉄棒活動を通して、子どもたちは心と体を大きく育てきました。年長児はその成果発表の場として、2月27日に体操発表会を実施しました。

本取り組みの内容および実施結果について、3月18日に理事・評議員の皆様へ報告し、講評をいただきました。

講評では、本園が開園当初より大切にしてきた教育方針に基づく取り組みが、毎年着実な成果につながっていること、また、その教育方針が子どもたちはもちろん保護者の皆様にもよく理解されているとの評価をいただきました。

また、目標を達成することの素晴らしさに加え、そこに向かって努力を積み重ねる過程にこそ大きな学びがあり、その意味を教職員が十分に理解し、子どもたちと共に取り組んでいる姿に感銘を受けたとのお言葉もいただきました。